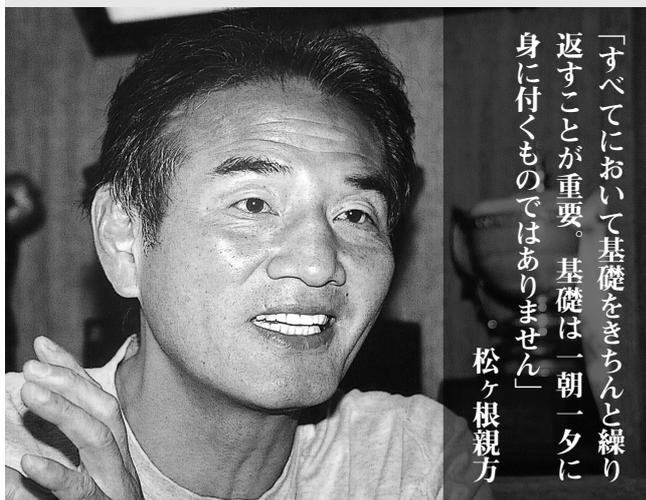


大相撲 松ヶ根親方夫妻

松ヶ根六男さん・日高みづえさん
 (元大関 若嶋津) (元歌手 高田みづえ)

大相撲の松ヶ根部屋を訪ねた。親方の指導方針である基礎をしっかりと、できるまで繰り返すとの稽古内容を拝見した。お話をされる親方は、実直な性格がにじみ出てくるようで、お弟子さんが親方を慕っていることがすぐにわかった。おかみさんは明るくて前向きな性格と自身分析されるとおりの方で、お弟子さんはお母さんというよりは優しいはきはきしたお姉さんとして慕っているのではないかと思った。(聞き手・構成：坂本正幸)



「すべてにおいて基礎をきちんとして繰り返すことが重要。基礎は一朝一夕に身に付くものではありません」
 松ヶ根親方



「私はお弟子さんたちのよき相談相手。親の立場になってみれば、自分が彼らの親であるときまでは言えません」
 みづえさん

—相撲の世界に入ったきっかけを教えてください。

松ヶ根親方(以下「親方」): 高校時代、国体の団体戦で優勝しました。そのときに、自分の力を試したくてプロの世界に飛び込みました。

—その後の活躍は周知のとおりですが、大関になられて引退、その後松ヶ根部屋を立ち上げたのですね。

親方: 30年以上にわたって相撲一筋です。

—たくさんのお弟子さんがいらっしゃいますが、特に気を付けていることはありますか。

親方: まず自分がしっかりすることです。自覚をもって事にあたれば若い弟子たちも必ずついてきます。また、相撲協会の一員としての自覚も必要です。品位を守り、協会の人間として恥ずかしくない行動をするということが必要です。これは弁護士さんが弁護士という職業にふさわしい行動をとるべき、ということと共通するのではないのでしょうか。

—相撲部屋は家族のような印象を世間では持っています。

おかみさんの役割は重要だと思うのですが。

親方: 弟子たちは、私には言えないことでもおかみさんには話せるということもあるようです。弟子たちはおかみさんに相談に行ったりいろいろ頼りにしているようです。

—おかみさんというと、お弟子さんたちのお母さんというイメージがあるのですが。

みづえさん(以下「みづえ」): 私はあまりお母さんというイメージでは接していません。自分も子育てをし、親の立場になってみると、お弟子さんたちのご両親の気持ちがわかるので、自分が親であるときまでは言えません。一番心がけているのは、私が彼らの生活の中でよき相談相手であるということです。

—結婚しててたまされた、と思ったことなどはありませんか。松ヶ根部屋公認HP(<http://www.tom-tour.co.jp/matsugane/>)では(高田みづえのヒット曲「そんなヒロシに騙されて」をもじって)「そんな親方にだまされ…」とありますが。

みづえ: 周りの人は大変でしょう、などと心配しているアドバイスをしてくれましたが、たまたま結婚した

人が相撲取りだったというだけです。結婚した人が親方になったので私もおかみさんになったということです。私は何事にも前向きに取り組もうと思う性格なので、芸能界のときも結婚してからのおかみさんという立場も積極的に取り組んできた結果、現在があると思います。

——先ほど稽古を見学させていただきましたが、親方がお弟子さんを見ていて、なぜできないのだろう、と思ったりすることはありますか。

親方：それはありません。菌がゆく感じたりするのは、自分が上の立場でものを見ているからだと思います。新弟子であれ、番付があがってきた者であれ、その人の立場で考えて、いま何をすれば進歩して番付があがるか、を考えればいいのです。その時点の経験や稽古の量から考えればできなくて当然ということはたくさんあるのです。そう考えれば、弟子一人一人のそれぞれの立場での課題や壁が見えてきます。私は、その壁を乗り越える方法を考え、指導し、できるまで辛抱強く繰り返しをさせるだけです。

——相手の立場にたって何が必要かを考えることが親方の指導の基本なのですね。

親方：そのとおりです。焦らずにじっくりできるようになるのを待つのも私の仕事です。

みづえ：親方の話では、年齢や経験によってやるべきことが違うそうです。若いうちは基礎体力をしっかり付けなければいけないので徹底的に稽古をしなければいけないとよく言っています。それを見極めるのも師匠の仕事だそうです。

——稽古を見ていましたら、四股などの基本の稽古をいい加減にやっている力士が見あたりませんでした。これも親方の指導方針なのですか。

親方：すべてにおいて基礎をきちんと繰り返すことが重要です。そして、基礎というものは一朝一夕に身に付くものではありません。ですので、毎日毎日単調であっても繰り返す必要があります。この基礎作りをいい加減にしまうと伸びる者も伸びません。ですから基本だけは特にきちんとやるように指導しています。

——基礎の重要さはどの世界でも重要ですね。親方の地域との関わりなどについて教えてください。

親方：先日の体育の日には、地元の方に来てもらって



プロフィール

松ヶ根六男(まつかね・むつお) 1957年鹿児島県出身。1975年二子山部屋入門、本名・日高の四股名で初土俵。1980年3月場所、新十両に昇進と同時に若島津に改名。1983年1月場所、大関昇進。1984年7月場所、若嶋津に改名。優勝2回、敢闘賞2回、技能賞3回。1987年7月場所中、引退。年寄松ヶ根を襲名。1990年2月二子山部屋から分家独立し松ヶ根部屋を興し後進の育成に。

日高みづえ(ひだか・みづえ) 1960年鹿児島県出身。1977年「硝子坂」で歌手デビュー、同年日本レコード大賞新人賞等受賞。NHK紅白歌合戦に7度出場。1985年大関若嶋津(当時)と結婚、芸能界を引退。現在、相撲部屋のおかみさんとして、2人のお子さんのおかあさんとして大活躍。

土俵で何人かに相撲を取ってもらいました。食事も部屋の台所で作って近所の公園で皆さんに食べてもらいました。地域の皆様の協力があるからこそ強い力士が生まれると思っています。

みづえ：すべてにおいて、いろいろな人との縁が重要だと思います。地元の方もそうですし、後援者の方もそうです。その中から人間が磨かれていくのではないかと思います。

——ところで3年後には裁判員制度が実施されます。本場所中の力士は裁判員を辞退することになるのでしょうか。

親方：そうですね、場所中は仮に1日であっても拘束されたら力士にとっては黒星につながりかねません。

——親方は辞退できませんね。

親方：そうですね。相撲一筋の私に何ができるかわかりませんが、裁判員をする場合は人の一生を決めることになるわけですから緊張感があります。

みづえ：裁判所から呼び出しがあれば必ず参加します。自分の考えで判断する制度だということですから、しっかり考えて結論を出したいと思います。相撲に限らず心技体が充実した状態でなければしっかりした判断はできないと思いますから、普段から他の世界を知ることの重要性を感じます。だからこそ人との出会いを大切にしていきたいと思っています。